

「若者が薬物を始めるきっかけは好奇心。それから家庭に居場所がないことが多い」。薬物依存症からの回復を支援する名古屋ダルク代表の柴真也さん(三〇)が憂える。

両親がけんかばかりしていたり、親が酒を飲み暴力を振るったり。家に帰りたくない子どもたちが夜の街に出る。「みんなやってるよ」「煙を吸うだけなら問題ない」「一回だけなら大丈夫」。そんな甘い言葉に誘われて、薬物を

物

使ってしまった子どもたち。薬物で、心や体の痛みを紛らわそうとする。

薬

その気になれば、誰でも薬物を手でできるようになったといわれる。しかし、柴さんは「クスリを手に入れた子どもが悪いわけではない。クスリを売る大人が悪い」ときっぱり。「大人には社会全体の問題であることを知ってほしい」。柴さんの言葉がズシリと心に響いた。

目^{もく} 耳^じ 録^{ろく}

(長田真由美)